

平成 30 年度 研究成果報告書
Research Achievement Report FY2018

講座名・職名 Course Title・Job Title	ヨーロッパ・アメリカ I 講座
氏名 Name	渡邊 克昭
専門分野 Academic Field	アメリカ文学・文化

主たる研究テーマ Principal Research Subject	21 世紀英語文学におけるポストヒューマニズムの思想的展開—物質としての生命
<p>本年度の出版活動としては、『揺れ動く<保守>—現代アメリカ文学と社会』（共著）山口和彦、中谷崇編、春風社、（2018 年 9 月 13 日発行）において、論文「囁き続ける水滴—ドン・デリーロの『ゼロ K』における「生命の保守」」（pp. 275-307.）を掲載するとともに、論文「ポストヒューマン・デザインの地平—ダン・ブラウンの『オリジン』における AI と「かぐわしき科学」のゆくえ」を『英米研究』第 42 号（大阪大学英米学会、2019 年 3 月 31 日発行、pp 29-57.）に掲載した。以上に加えて、書評としては『アメリカ文学研究』第 55 号、（日本アメリカ文学学会、2019 年 3 月 31 日発行）において、諏訪部浩一著『アメリカ小説を探して』の短評を掲載した。口頭発表としては、特別講演「呼び交わす巨匠たち—ベロー、ヘミングウェイ、デリーロにおける〈死〉のアポリア」を、日本ソール・ベロー協会第 30 回大会、（2018 年 9 月 5 日、専修大学）にて行った。</p> <p>論文「ポストヒューマン・デザインの地平—ダン・ブラウンの『オリジン』における AI と「かぐわしき科学」のゆくえ」では、生物的存在としてのホモ・サピエンスと非有機的なテクノロジーとしての AI が分かち難く融合したポストヒューマン時代の到来を視野に入れ、最先端テクノロジーと人類の叡智を接合して創造された AI が、いかなる「アート」を駆使して「かぐわしき科学」の誕生にどのような複雑な陰影を投げかけるのか、本作に描かれた黎明期のポストヒューマン・デザインの地平を明らかにした。まずもって、『オリジン』を特徴づける「アート」には、次の 3 つの意味が複合的に含意されている。AI が自ら告白するように、「彼」自身の略称が「人工」を意味する「アート」であってみれば、その振る舞いそのものが、人工的に合成された知能のなせる技であるという意味での「アート」。次に、あらゆる情報に通じ、舞台裏で暗躍し続ける AI が、このうえなく衝撃的なメディア・イベントを演出すべく、人々を翻弄するのに用いた手練手管という意味での「アート」。そして、ビルバオのグッゲンハイム美術館、並びにその内部を彩る現代アート、さらにはアントニ・ガウディが心血を注いだ未完の大聖堂、サグラダ・ファミリアや、彼の邸宅カサ・ミラなど、スペインを舞台とする本作に描き込まれた絵画、造形美術、建築など、文字どおり芸術という意味での「アート」。本論文では、分かち難く絡み合ったこれらの 3 つの「アート」の重層的な意味作用を解きほぐし、天才的な未来学者、エドモンド・カーシュが人類に突きつけた問いかけ、すなわち人類の起源と人類の運命に関して、彼が提起する「かぐわしき科学」が、いかにポストヒューマンの光と翳を炙り出しているのか、AI、ウィンストンが果たした役割を多角的に浮き彫りにすることにより分析を進めた。</p>	